



第10回年会特集 第2弾 ～年会に参加して～

年会に参加された若手・中堅の研究者から年会の感想を寄せていただきました

▶ 私は本会が初めての学会参加であり、緊張もありましたが、最新のエピジェネティクス研究のお話をお聞きできるということへの期待を胸に、第10回エピジェネティクス研究会に参加させていただきました。また、幸運にも本研究会より年会参加を支援して頂き、参加することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

本会で最も感銘を受けたのはエピジェネティクス研究の幅広さと奥深さです。田嶋先生が発表された結晶構造を明らかにするという生化学的アプローチからのメチル化解析や、藤田先生が開発されたenChIP法を用いたエピジェネティクス研究など、基礎研究から技術開発まで多岐に渡る内容に非常にわくわくしました。私は「大腸がんにおける集積性lncRNAのテリトリー異常がβ-cateninにより制御される」という研究成果をポスター発表させていただきました。初めての発表でしたが、エピジェネティクスを共通とする幅広い研究者の方々に、それぞれの視点からご意見をいただき、議論できたことが非常に楽しく、有意義な経験を積むことができました。加えて、学会への参加および成果発表の重要性を実感しました。一方、他の研究者の方々のポスターでは、がんやlncRNA、ゲノムインプリンティング、核内構造など、私の研究とも共通点のある演題が多く発表されており、2時間では足りない程興味深いものばかりでした。

さらに、本会では懇親会の後に若手の懇親会が開催されました。年代の近い学生や研究者の方々と研究の話はもちろん、研究室や将来についての話をすることができ、非常に刺激を受けました。今回のエピジェネティクス研究会を通じて、幅広い視点からエピジェネティクスを考えることの重要性和面白さを学びました。今後もこのような魅力的な会に参加できるよう、日々精進し、研究に励みたいと思います。



片岡 美喜

鳥取大学大学院医学系研究科
遺伝子機能工学部門
博士前期課程1年

▶ 減数分裂期相同組換えからセントロメアへと、エピジェネティクスとの関わりがより強い研究分野に参入して約1年半が過ぎた5月、出始めた結果を携えてエピジェネティクス研究会年会へ初めて参加しました。第10回年会記念企画である歴代会長講演では、最新の成果と「これまで」について拝聴できて大変勉強になりました。さらに、エピジェネティクス研究の「これから」の方向性や可能性についてのメッセージを感じることもでき、私にとって大変価値の高い年会となりました。

普段分子レベルの視点で研究を行っていることもあり、DNAメチル化やヒストン修飾の基本メカニズムにばかり目が行きがちですが、エピジェネティクスと発生や疾患との関係、技術についてなど様々なトピックの研究に触れることで、エピジェネティクスは環境によって変化するというのを再認識しました。特に、臨床寄りの内容が印象的でした。牛島俊和先生のピロリ菌除去後のメチル化状態と胃がんのリスクの関係についてや、湯浅保仁先生の緑茶と胃がんのDNAメチル化との関係についてなど、エピジェネティクスを身近に感じることができました。年会は、エピジェネティクスをキーワードに、様々な研究者と情報交換できる貴重な場であると思います。総会では、どうしたらエピジェネティクス研究者の助けになるかについての議論もなされ、研究コミュニティの重要性を考えさせられました。こういった議論も研究分野の活性化に欠かせないと感じました。私自身もその点について意識していきたいと思います。

今回、エピジェネティクス研究会年会という私にとって新しい環境でたくさんの方のことを吸収できました。次の年会に向けて日々研究に励みたいと思います。最後に、私事で恐縮ですが、珍しい名字と言われることが多いにも関わらず、同じ名字である久郷裕之先生（研究分野も近い）に初めてお目にかかれたことも嬉しい体験でした。



久郷 和人

かずさDNA研究所
先端研究部 細胞工学研究室
研究員



▶ 第10回日本エピジェネティクス研究会に参加させて頂きました。大阪市にある千里ライフセンターは研究会開催の中では大きな会場だと感じましたが、ベテランの先生方、若手の研究者や大学院生でほぼ席が埋め尽くされていました。

今年は、歴代年会会長を務められた先生方9名のご講演、ショートトーク、奨励賞受賞者3名と特別講演の石井俊輔先生、そして次回年会会長を務められる眞貝洋一先生によるご発表で構成されていました。日本のエピジェネティクス研究を牽引されてこられた先生方のお話を一度に聞くことができる贅沢な構成で、エピジェネティクス研究がどのように、どこまで進み、どこへ向かっているのか自分なりに俯瞰することができたように思います。

特に自分の研究分野に関係のある脳神経系細胞のエピゲノム研究に携わる中島欽一先生、組織・細胞特異的な反復配列とその調節機構についてのご研究内容を話された佐々木裕之先生のご発表では、講演時間があっという間だったと感じるほど聞き入ってしまいました。また牛島俊和先生は胃がんと食道がんにおけるメチル化解析に関する話をされ、膨大なデータ量と臨床へ還元していくご研究に大変刺激を受けました。

ポスター発表では、多くの建設的な意見を頂き今後の研究に生かしていきたいと思います。私は今回が3回目の参加となりましたが、全体を通して今年も熱気に包まれた刺激的な会だと感じました。その熱気に負けないよう、今後も研究を進めていきたいと思ひます。



村田 唯
東京大学大学院
脳神経医学専攻
精神医学分野
博士課程4年

▶ 久しぶりに日本の学会に参加するにあたって、口頭発表のチャンスが多い会を探していたところ、以前カロリンスカ研究所にお越し頂いた田嶋先生(大阪大学)が第一回年会長をされたJSEのことを思い出しました。幸い今年会ではショートトークとして発表する機会を頂きました。年会長の仲野先生(大阪大学)をはじめとする組織委員の先生方には深く感謝いたします。今回は Preliminary なデータからいささか冒険的な仮説を提案致しましたが、皆様には興味を持っていただけただよううれしく思います。ポスター発表では刺激的なアイデアだけでなく、共同研究のオファーまで頂きました。ポスターにお越し下さった方々には改めてお礼申し上げます。

今年会では歴代会長や石井先生(理研)によるビッグプロジェクトの講演をメインに、若手研究者による小規模ながらも意欲的な研究を交えた濃密なスケジュールで進行しました。ディスカッションでは学生の皆さんがいわゆる大御所と呼ばれるような先生方にも臆することなく、それでいて礼を失することなく大変シャープな質問を提起しており、彼らのレベルの高さに感心しました。そして、それに応える先生方の嬉しそうな表情がとても印象に残りました。個人的に特に感銘を受けたのは、座長の先生方がたびたび研究のロバストネスの重要性を強調されていた点です。近年NGSの発達により総当たりの解析が可能になりましたが、それと同時にウェットの研究者には元データの精査が困難な論文が増えてきました。またNGSは費用もかかることから、試行回数が少なくても認められる場合が多いようです。私のようなせっかちな研究者は、ともしればそこから先走った結論を示しがちですが、そんな時こそデータに誠実に、ロバストネスを心掛けなければいけないと再認識いたしました。来年の年会では、これまでよりも更にロバストな研究を発表できるよう一層精進を重ねたいと思ひます。



隅田 周志
Department of Microbiology,
Tumor and Cell Biology
Karolinska Institute
研究員



▶ 第10回日本エピジェネティクス研究会年會に参加いたしました。近年の爆発的なエピジェネティクス関連分野の広がりを反映するように、対象も様々なテーマで研究されている方々が集まりますが、実際に研究を行っている個人が見える、ちょうど良いサイズの魅力的な会だと思います。

今年、エピジェネティクスのこれまでとこれからというテーマで、歴代年會長講演では、DNAやヒストン修飾による遺伝子発現制御の基礎メカニズムから、細胞分化と個体発生、癌などの疾患まで、幅広く勉強させていただきました。特別講演での石井先生の世代を超えたエピジェネティック遺伝については、新たな概念が打ち立てられており、視野が広がる思いで聞いていました。また、隅田さんが発表された Nodewalk 法や、藤田さんの iChIP/enChIP 法など、新規解析技術を用いた研究をはじめ、自身の研究に参考にしたい発表が多く、研究意欲がかき立てられる二日間でした。その他にも興味深い発表がたくさんあり、ポスター会場でも活発に議論が交わされ、人だかりの中で質問するタイミングを見つけるのが難しくくらいでした。遺伝子発現の可逆的な制御や、細胞の分化と脱分化など、双方向の反応を巧妙に制御している生命現象の奥深さには改めて感心

してしまいます。その基盤となっているエピジェネティクスを操作することが、現象のさらなる理解のみならず、今後の展開として重要だと感じました。

私はショートトークで、生細胞イメージングを用いたヒストン修飾と転写のダイナミクスについて発表させていただきました。緊張で時間配分のミスもあり、理解していただけたか心配でしたが、美しいデータで面白い研究とのコメントを多数いただき、今後の研究の励みとなっています。また、初日の夜には若手研究会なる懇親会もあり、研究のことから普段の生活まで、熱く語り合うことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。最後に、年會長の仲野先生はじめ関係者の方々に感謝申し上げます。



半田 哲也

東京工業大学
科学技術創成研究院
細胞制御工学研究ユニット
研究員

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年會に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(代表) 中島 欽一 (kin1@scb.med.kyushu-u.ac.jp)
梅澤明弘 (omezawa@1985.jukuin.keio.ac.jp)
古関明彦 (koseki@rcai.riken.jp)
胡桃坂仁志 (kurumizaka@waseda.jp)
中山潤一 (jnakayam@nsc.nagoya-cu.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

山梨大学大学院総合研究部
環境遺伝医学講座内
庶務担当幹事：久保田健夫
担当：石川由美江
住所：〒409-3898 山梨県中央市下河東1110
TEL: 055-273-9557
E-mail: jse-jimukyoku@yamanashi.ac.jp